

元劇団員 故加藤大善さん（享年 70 歳）が 2014 年 12 月胸膜中皮腫を発症、2016 年 4 月に死去されました。発症されてから苦しい闘病生活を強いられ亡くなられました。ここに東京芸術座として追悼の意を表します。

<故加藤大善さん略歴>

1974 年 4 月東京芸術座演劇研究所 第 11 期生として入所

1977 年 4 月東京芸術座入団、1980 年 1 月に退団。

1977 年から約三年間弱の期間、東京公演・全国巡演に俳優として参加。

2017 年 9 月、ご遺族はるみさん（妻）が支援団体「中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会」事務局の方と来団。2018 年 2 月池袋労働基準監督署が聴き取り調査のため来団。

当時の勤務実態、体育館での作業状況など以下の事をお話しました。

東京芸術座は 1960 年より全国の中学校高等学校で演劇鑑賞会巡演を開始。学校の体育館、地域の公共ホールでの演劇鑑賞会を現在も行っています。加藤大善さんは舞台設営のために、体育館の天井裏や、公共ホールの簀子に上って作業されていた可能性はある。作業内容として直接アスベストに触れることはないが、なんらかの理由でアスベストを吸い込んだ可能性は 100%否定できない旨の話をしました。結果、池袋労働基準監督署が、アスベストが原因で中皮腫を発症し死亡したとして労災認定となりました。12 月 19 日、ご遺族が厚生労働省で会見を開かれ新聞各紙が舞台俳優の労災認定と報道されました。

（厚生労働省HPより）

「学校施設においては、吸音等を目的として天井等に吹き付けアスベストが使われてきました。昭和 62（1987）年に学校、公営住宅等における吹き付けアスベストが社会問題となり、同年、対応方策について早急に検討するため、公立学校施設の吹き付けアスベストの使用状況の大勢の把握を目的として調査を実施しました。（後略）」

厚生労働省のHPに記載されているように、当時アスベストによる健康被害は全く知らされていませんでした。行政はアスベストを放置して、95 年ようやく規制に乗り出したそうです。また悪性中皮腫で毎年多くの方々が苦しみながら亡くなっておられるのに、労災認定された方は極僅かです。加藤大善さんように中皮腫は、ほぼアスベスト曝露が原因とされています。全ての被害者の救済を強く求めます。

現在の体育館はアスベスト対策として封じ込め、囲い込み等の措置を行っているとのことですが、完全な撤去が施されているわけではありません。この先 20 年後くらいまでの期間、アスベストを含んだ学校などの建物の解体がピークを向かえるといわれています。国の基本対策を一から見直し、アスベスト被害で苦しむことのないように強く訴えます。

有限会社劇団東京芸術座 取締役社長 北原章彦